



ふくろう先生に
聞いてみよう!

「自然が教えてくれること」

「Harmony Music Room 主宰、演奏家 中村 はる

9月中旬の朝、我が子たちはツマグロヒョウモンの幼虫のために、庭で新鮮なスミレの葉を探しています。すでに一つの蛹には黄金の突起が現れ、黒色と金色の突起は芸術的な造形美を醸し出しています。こうして「本物」に触れることで、ますます昆虫世界への不思議や生き物への魅力へ惹き込まれるのです。

私は川崎市で生まれ育ち、幼い頃から多摩川をフィールドに遊んでいました。学校からは駆け足で帰宅し、ランドセルを玄関先に置いてすぐに遊びに出かけていました。三つ年上の兄を隊長に「探検隊」を発足し、木の枝を集め、段ボールを敷き詰めた基地を拠点に様々な所へ出かけました。多摩川の浅瀬を歩いて東京都側へ渡ったこともありましたが、アオダイショウを捕まえてお互いに首に巻きつけて遊んだこともありましたが。当時の私は好奇心に溢れ、兄との野性味あふれる遊びが楽しくて仕方ありませんでした。

音楽大学を卒業後は、亡き父の故郷である北海道で教職に就くことを選び、大雪山系旭岳の麓の「東川町」や「美瑛町」の山奥で暮らしていました。北海道の冬は厳しさの中に美しさが溢れています。真冬の早朝に現れる太陽柱サンピラー、ダイヤモンドダスト、湖面が全面氷結して列状に割れて隆起する「御神渡り」、サラサラとかすかな音を立てて結晶のまま降り積もる雪などはとても神秘的です。マイナス30℃近くまで冷え込む夜の森での雪中キャンプ、木の幹を爪でカリカリとこすると巣穴から次々と顔を出すモモンガの愛くるしい顔、月明かりが照らしたエゾフクロウの堂々たる姿、道路を横断する30頭



以上のエゾシカの群れなど、様々な感動体験をした私は、幼い頃的好奇心がよみがえり、五感がフルに働くようになりました。そして、雄大な北海道での10年間の暮らしは「人間は当たり前前に命があって、当然のこととして生きているのではない」ということを教えてくれたのです。

現在、我が家の庭は昆虫たちが集う庭です。昆虫や生き物を敵としない「ナチュラルガーデン」を目指しています。人生は一度きり。魚も、鳥も、蝶も、虫たちも、一度きりの命を危険と隣り合わせで生きています。そして命をつなぎ、全うします。私はその生き様から多くの感動をもらいますし、子供たちにとって何よりも一番の教材だと思っているのです。

これからも、子育てをしているこの富山県の素晴らしい自然の中で、子供と共感し合い、謙虚な気持ちを持って「自然から学ぶ」ことを大切にしていきたいと思います。

活動の振り返り／行事報告

「ジュニアナチュラリスト養成講座」

平成 28 年 7 月 16 日 (土)

今年度もジュニアナチュラリスト養成講座があり、ねいの里も研修を担当しました。午前中はオリエンテーリング形式でチェックポイントにある課題を考えたり、展示してある小動物や剥製を観察しながら、里山の自然を学びました。午後からセイタカアワダチソウやアメリカセンダングサなどの外来植物の観察をし、除去作業も体験しました。



(グループ毎に課題を考える)



(外来植物の除去体験)

「夏休み自由研究支援教室」

平成 28 年 7 月 27 日 (木)



夏休みの自由研究に役立ててもらおうと、初めて企画しました。研究テーマの参考になるような実習や、自分で考えたテーマについて研究の進め方やまとめ方のアドバイスを行いました。



(自作のワナを池に仕掛ける)

ちょっと残念だったのは参加者が少なかったことです。(平日の開催だったからかなあ……。)

〈今回行った実習〉 ペットボトルを利用したワナを作り、池に棲む小動物の調査をする方法や、植物の種類を調査する方法などです。

ねいの里生き物調査

「トンボの観察と標本作り」

平成 28 年 8 月 7 日 (日)



オニヤンマを捕ったぞ〜!

トンボ好きが集まりました。大変暑い日で、汗だくになりながらのトンボ捕り。大きなオニヤンマやクロスジギンヤンマを捕まえる子がいれば、小さなイトトンボしか捕まえない子もいます。捕虫網ですばしっこいトンボを捕まえるのは、大人でもなかなか難しいのです。捕まえたトンボの標本を作った後、図鑑で種類の確認をしました。



(トンボやヤゴの種類を調べる)

「夜の昆虫大探検」

平成 28 年 8 月 20 日 (土)



(鳴いているのは、なーに?)

ガチャガチャガチャ

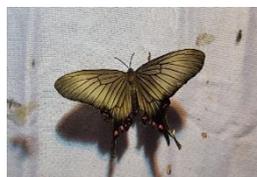
カブトムシやクワガタなどを作る木工コーナーや、コンニャクの田楽も好評だったようです。

秋の虫の鳴き声を聞きながら夜の林の散策です。一人で歩くと不気味で真っ暗な林も、大勢いると楽しくなります。

昨年は外来種のアオマツムシがたくさん鳴いていて、他の虫の鳴き声が聴きづらかったのですが、今年は開催時期が早かったためかアオマツムシが思いのほか少なく、クツワムシの鳴き声もよく聞こえました。

(ライトトラップに集まった虫)

ライトアップに集まった昆虫の観察もしましたよ。



(アゲハモドキ)



(ウマオイの仲間)

ジュニアナチュラリスト支援行事

「有峰の自然を探る・アサギマダラ調査」

平成 28 年 9 月 4 日 (日)

今年の動植物の世界はいつもと違い、何かおかしいといわれています。アサギマダラにも当てはまりそうで、この行事の5日ほど前の情報では「有峰にアサギマダラは来ていない」ということだったので、心配していました。ところが当日はチラホラと飛翔していて、49頭にマーキングすることができ一安心しました。



アサギマダラには不思議な習性があり、白い物（ハンカチなど）を振り回すとすーっと近づいてきます。これをさっと網の一振りですくればメダシ！失敗して二振り、三振りすると、驚いたアサギマダラは遠ざかってしまいます。捕れた時の誇らしげな顔が今も目に浮かびます。

この後にはマーキングしたアサギマダラがどこかで再捕獲されるのを待つ楽しみが残っています。「だれか捕まえてくださいーい！お願いします。」



「アサギマダラのマーキング調査に参加して」

アサギマダラ愛好家 甲斐 久仁子、エリカ、マイケル

今回、大阪から親子で特別参加させていただいた甲斐と申します。

とても貴重な体験をさせて頂き親子ともども感謝しております。

アサギマダラはあちらこちらで見ることができますが、それぞれの場所で環境に応じた行動パターンがあり、改めてアサギマダラのごさというものを実感しました。またアサギマダラに対する見方も人それぞれ違うので、お話を聞いているととても興味深いです。

参加されていた子供たちの自然に対する見方や触れ合い方も、都会の子供たちに見られないものでとても新鮮でした。バスに乗っていたときも、時間があるからといってゲームなどをするのではなく、自然について語り合っていたりして、自然にたいする探究心というのでしょうか。このような子供たちの心にあるものを大切にしていけないと感じました。

「キノコ狩りとキノコ鍋を楽しむ」

平成 28 年 10 月 2 日 (日)



(キノコの鑑定風景)

ねいの里恒例のキノコ狩りを行いました。心配した天気も開始の頃には晴天になり暑いくらい。園内の林に入りキノコ狩りを楽しみました。採ったキノコは講師に鑑定してもらい、食べられるキノコがあるとにっこり。(ほとんどが食べられないキノコでダメ息の方が多かったようです。)

裏話ですが、キノコ鍋用の天然キノコを用意するのが大変なのです。(去年、今年とヌメリコウジタケがたくさん採れたので、助かっています。)傘の裏が古そうなのは裏をはがしてごみをきれいに洗い、大

きいものは小さく裂き冷凍用のポリ袋に入れます。それを電子レンジで4~5分間チンして冷凍。こうしておけば、そのまま鍋に入れて使えるのです。

ところで、ねいの里でキノコがたくさん出るのは、8月末から9月中旬にかけてなのです。この頃には右の写真のような大型のキノコが次から次へと出てきます。多くは傘の裏が網目になっているイグチの仲間と、柄の生え際につぼがあるテングタケの仲間。イグチの仲間では食べられるものが分かるようになると楽しいなー(と、これを書きながら思っています)。

テングタケの仲間は大半が有毒なのでご用心。



豆知識

<どんぐり>

ドングリとはブナ科で硬い殻を持つ木の実の総称です。(ブナやクリも含みます。)
日本に自生するドングリの木はどのくらいあるかご存知ですか? 20種類以上あるんですよ。
コナラやクヌギのように冬に葉を落とす落葉広葉樹、シイやカシのように冬葉を落とさない常緑広葉樹(照葉樹)があります。また、実が一年で熟すものと二年かけて熟すものがあります。
食べておいしいのは、公園などに植樹されていることが多いスダジイとマテバシイ(もちろんクリやブナの実も)。ブナやミズナラの実には熊の重要な食糧にもなっています。
かつて、里山に多いドングリのなる木は、炭の材料や椎茸のほだ木として、私たちの生活に深く関わっていました。

ねいの里行事案内 (ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

- 10月30日(日)「ねいの里生き物調査・木の実の観察」
9:30～12:00 集合場所:ねいの里 定員:ジュニアナチュッリスト中心に20名
- 11月6日(日)「木の实観察とクサギ染め」
9:30～12:00 集合場所:ねいの里 定員:30名(材料費200円必要)
- 11月20日(土)「蔓植物の観察会・クリスマスリース用輪っか作り」
9:00～15:00 集合場所:ねいの里
- 12月4日(日)「クリスマスリース作り」
9:30～12:00 集合場所:ねいの里 定員:30組
(材料費300円/1個必要 ねいの里自然塾の会員は1組に1個無料)
- 12月18日(日)「正月飾りと干支づくり」
9:30～12:00 集合場所:ねいの里 定員:20組(材料費200円必要)

<行事への参加希望の方は、ねいの里までお申し込み下さい。>

■ 企画展

- 8月31日～11月23日 ねいの里キノコ写真展
- 11月25日～3月31日 ネイチャーフォト展
(皆さんの写真を募集しています。)
- 12月14日～1月16日 春の七草実物展

お詫び 担当者の不手際から「ふくろう通信」の発行が遅くなってしまいました。
心よりお詫びいたします。

■ お願い ■

- 「ふくろう通信作成への協力をお願い」
日頃思っていること、人に話したいことを「ふくろう通信」に載せてみませんか。
皆さんからの投稿をお待ちしています。
- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラリスト駐車場を利用来ます。



発行 富山県自然博物館ねいの里 館長 富永 宣宏
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>